

**潮騒通信**

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

# どっこい生きてます!



東北の被災地にエイサー慰問

# 復興支援ツアー

2013

# 12

## 依存症の回復はいつやるか？

### まさに「今でしょ！」

早いもので師走も終盤となりました。読者の皆様お変わりありませんか。潮騒 JTC を挙げて取り組んだ8周年フォーラムも終わり、ちょっと一息つきたいところですが、相変わらず施設内ではいろんな問題が起こり、後始末に振り回される日々です。なかでも頭が痛い問題は、増え続ける高齢の入寮者への対応と今後の見通しです。私がダルクにつながった10年前ごろは各地のダルクはまだ若い人たちが中心で、60歳の私が仲間の間では最高齢でした。

当時、アルコール依存症はともかく薬物依存症に関しては若い人たちの“専売特許”のようなところがあり、ヤク中が60、70歳代の高齢まで生きながらえるビジョンは現実味がなかったものです。だから私のような者に対しては「もう60なんだから、今さらやめなくてもいいんじゃない」「このままアル中、ヤク中人生を貫き通した方がかっこいい」など、からかい半分の声が仲間の中にもありました。でも、私は依存症の克服に必死でした。後がないとしても、「残りの人生は何とかして人間らしくありたい」と必死に回復に努めました。

結果として、依存症の回復に遅いはない、まさに今年の流行語大賞のいつやるか？「今でしょ！」を実証し、自ら体現してきました。それは私が7度目の刑務所からの出所で本物の「底つき」を体験したことで、回復を諦めない力があつたからだと振り返って思います。先のフォーラムで講演してくれた進藤龍也牧師の言葉を借りれば、我がハイパーパワーは私の「本気度」を試したんだと思います。とにかく私は回復プログラム(12ステップ)を信じて、その霊的とも言える“奇跡”で助けられ、古希を迎えるまでに命をながらえています。

でも、私は例外だったのかもしれませんが。独立して施設運営を決意し、紆余曲折を経ながら幸運にも周囲の人材に恵まれ、多くのサポートを得ることができました。そのことで新しい人生のビジョンを描いています。でも、実際には依存症を持つ高齢者の回復は予後のビジョンを描くことはとても困難です。多くは長年に及ぶ破天荒な生活で重篤な内臓や精神疾患を抱えているからです。たとえ命がつながったとしても、ないない尽くしの高齢依存症者の余生をどう意義あるものに保障するのか？ 歴史上も経験したことのない超高齢社会に差し掛かったこの国で、それだけでなく生きるビジョンを描きにくい依存症問題の、さらに困難な高齢化問題にどう対応していけばいいのか、まさに今潮騒 JTC は施設運営の正念場を迎えています。（施設長 栗原 豊）

## ファイザープログラム

## Pfizer Program

### やったぞ！ 潮騒 JTC 3年目も助成決定

#### ヒトシさん、最終年に向けスピーチで決意

複合的な依存症者向け就労支援プログラムの独自開発を目指す「潮騒ファイザープロジェクト」が、3年目も2013年度「ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援」の継続助成対象に選ばれました。12月17日には難関を突破して選定を受けた各団体（新規8件、2年目4件、3年目4件の計16団体、助成総額約3千万円）の代表らが参加して、都内のファイザー本社で贈呈式とプレゼンテーションセレモニーがあり、潮騒 JTC からはヒトシさん、ユウさんが参加しました。



▲会場を和ませる巧みなトークで「潮騒ファイザープロジェクト」についてプレゼンするヒトシさん

式では、各助成団体の代表らがファイザー執行役員の豊沢泰人経営政策管理本部長から助成決定書を贈呈され、潮騒 JTC からはスタッフを代表してプロジェクトリーダーのヒトシさんが決定書を受け取りました。続いて選考委員長の武井秀夫千葉大学名誉教授から総評があり、この中で「農地や支援農家の拡大、経済的自立を目指した商品作物の栽培の展開など、地域との連携を確立しつつあり、農業を核とした就労モデルにもなり得る発展性が評価された」と述べ、潮騒 JTC の名前を挙げて高く評価してくれました。

この後、各団体から4分間のプレゼンテーションスピーチがあり、我がヒトシさんは緊張しながらも潮騒ファイザープロジェクトの概要を紹介し、来年への決意を述べました。ヒトシさんは日頃のミーティングの感覚で巧みに参加者の笑いを誘い、会場の雰囲気を和ませてくれました。引き続き全員が参加して記念写真を撮り、式を終え、夕刻からの懇親会にも参加して、積極的に参加団体との情報交換や交流を深めました。

懇親会では新規に選ばれた NPO 法人「ダルク女性ハウス」（東京都、プロジェクト名「薬物依存症者の子育て支援プログラム」）や通算すると6年目の助成となる大阪ダルクの支援団体「フリーダム」（大阪府、同「刑務所を出所した薬物依存症者の包括的な回復支援プロジェクト」）のメンバーらと親交を深めたほか、先進的に社会的弱者の農業セラピーに取り組む NPO 法人「さいたま自立就労支援センター」（埼玉県）の関係者らと名刺を交換し合い、有意義な交流ができました。（勝）

### プロジェクト概要と選考委員会推薦理由

薬物、アルコール等の依存症に対する国民の理解は緒に就いたところである。その機をつくってきた民間回復施設等の努力が実り、全国に着実に拡大してきた。しかし、薬物・アルコール依存症者の社会復帰について地域社会の理解はまだ十分ではなく、就労に至っては厳しい状況と言わざるを得ない。助成1年目、2年目は依存症の人たちの職業訓練、就労支援に関する新規プログラムの開発と、地域における雇用の受け皿づくり、ネットワークづくりに取り組んできた。試行錯誤しながらも着実に前進し、特に地元の農業者を指導者として地域との連携を深めていることや、荒地を開墾して農地を拡大し、新しい農作物の開発に取り組むなど、これまでの実践が評価された。助成最終年は、こうした実践について、就労支援フォーラムなどを通じて地域の人たちや関係者への理解を促進すると共に、雇用の実現や農産物のブランド化など新たな展開も期待したい。

# ファイザープログラム

# Pfizer Program

## 依存症の当事者も意識を変え謙虚な矜持を

### ファイザー3年連続助成に感謝 ～施設長 栗原豊

お陰様で私たち潮騒JTCが取り組む農業を中核とした就労支援プロジェクトが3年連続で継続支援を頂けることになりました。身に余る光栄とも言える恩恵を与えてくれた主催者のファイザー社に対しては深く感謝申し上げます。この温情と期待に応じて、所期の目標達成に向け2014年も全力投球することを誓います。

私たちは、あえて就労支援活動に「生活保護受給者から納税者へ」の高いハードルを掲げました。このテーマの意味するところには、従来の障害者観からの脱皮を目指したいとの思いがあります。このことに関しては三重ダルクの市川岳仁施設長が、先月の潮騒8周年フォーラムでの講演でビジョンを示してくれました。

市川施設長は、この国の“障害者”が真に自立するためには従来の「支援」の在り方そのものを価値転倒することが必要だと力説されました。少数派の依存症については、なおさら当事者の意識改革が求められる、とも強調しました。正に目から鱗の思いです。この国で、依存症についての社会認知にはまだまだ時間がかかります。そうした地道な努力は続けなければなりません、私たち依存症者も世間の誤解や偏見を受けやすい存在です。それだけに私たち当事者も謙虚な矜持（きょうじ）が求められます。

「依存症者は困難な病気を抱えた障害者だから、我々を重んぜよ」という態度では、世間には相手にされません。理屈を超えた実践で信頼を勝ち得るしかないと考えます。私たちの活動は社会の局所における小さな一歩ですが、志だけは高く掲げて社会の落ちこぼれから地域で必要とされる社会資源へと自力更生していく決意です。今後とも私たちの活動に注目してください。そして物心両面からのご支援をお願い致します。



▲贈呈式の会場で、プロジェクトのサブリーダーのユウさん(左)と助成決定書を示すヒトシさん

## ファイザー推進委で1年間の活動を報告

### 各委員から次年度につながる貴重なアドバイス

今年の最終報告となる「第2回潮騒ファイザープロジェクト推進委員会（委員長・栗原豊施設長）が12月11日、鹿嶋市宮中の潮騒アディクションケアセンター（デイケア施設）会議室で開かれ、委嘱した多様な立場の委員の皆さんが出席して活発な意見交換がありました。今年1年間の活動報告や入寮者の体験発表に評価を頂き、ファイザー社の継続助成が決まった来年2014年の活動につながる多くのヒントを得ることができました。

#### ◆農業に特化した活動で多くの成果

はじめにあいさつに立った栗原施設長は「2年間に及ぶ実践で、中核となる農業について手ごたえを得た」として8割の計画達成率であることを力説しました。その上で「本プロジェクトは単に複合的依存症の一リハビリ施設の私的な恩恵にとどまらず、依存症問題の困難を突破する可能性を秘めている」との自負を込め、最終年度となる来年1年間もファイザー社による継続助成を受けられることを明らかにしました。



▲今年1年間の活動に評価を頂いた第2回潮騒ファイザープロジェクト推進委員会

引き続き事務局側からの報告に移り、プロジェクトリーダーのヒトシさんが2年間の取り組みについてパワーポイントを使ってプレゼンし、「今年は農業に特化した活動で多くの成果があった」と述べました。ベテラン農業者の尽力で潮騒水田のコシヒカリが豊作だったことや、支援農家の適切な指導で多品種の野菜づくりに成功し、試行的に直売活動にも挑戦して、わずかながら農業自然隊メンバーにも労賃代わりの報償金が出せたことを報告。本県が栽培北限の野菜としての青パパイヤは3割の収穫にとどまったが、「この失敗を来年に生かしたい」と貴重な体験となったことを同寄せました。

#### ◆商品となることで作物への慈しみ

体験発表では農業自然隊メンバーのナカさんが「農業体験はなかったが、苗を植える時期や肥料やりなど農業の奥深さを痛感した。真夏のピーマン収穫ではハウス内で汗だくになりながらも得難い体験ができた。自分の頭で考え、行動することの大切さを知り、発見も多かった。一つ一つが商品となることでやりがいと作物への慈しみを覚えた。根気が必要だが、来年もみんなと楽しくやって、潮騒農業を今年よりもステップアップさせたい」と話してくれました。

#### ◆建設と介護分野の雇用可能性

各委員からの質疑では「慢性的な人手不足の建設と介護分野なら依存症者の雇用可能性を見いだせる」「抽象的ではなく現実的にマンツーマンでの指導や助言が大事」「ヘルパーの資格がなくても補助的な仕事でやっていける」「生活保護法の一部改正で収入を就労の支度金を積み立てることができるようになる」「職業訓練では労災に対応して保険によるリスク管理や事故防止策を」—など貴重な助言を頂きました。

同推進委員会は本プロジェクトを主管する会議で、医療や福祉、司法、労働部門の多様な行政関係者と民間のカウンセラー、ケースワーカー、市議、支援農業者らで構成し、年に2回（6月と12月）開いています。

### 集大成に就労支援プログラムの冊子づくり作業

#### 2014年（プロジェクト最終年）の実施計画とまとめる

本プロジェクトは「生活保護受給者から納税者へ」を掲げる就労支援の意欲的な取り組みです。試行錯誤を経て、依存症者の職業訓練・就労支援には農業が有効と分かり、自前で農場を整備し、水田耕作に挑戦したほか、青パパイヤ栽培や野菜の直売活動も実施しました。計画最終年の来年（3年目）は潮騒農場を有効活用しながら、依存症者の職業訓練・就労支援プログラムをまとめます。以下、主な取り組みです。

- ▽ 農業に特化した計画を更に推し進める
- ▽ 新たに第3農場を整備し青パパイヤに再挑戦する
- ▽ シェアハウス（共同生活宿舎）を確保して就労への動機付けを図る
- ▽ 商品作物を収穫し、本格的に販売活動を展開する
- ▽ 収益金は事業参加者に労賃の形で分配する
- ▽ 就労している回復者の体験を聞く講座を開く
- ▽ 就労支援プログラムを冊子にまとめる

2014年（プロジェクト最終年）  
の実施計画

# ファイザープログラム

# Pfizer Program

## 「ファイザー潮騒農業プロジェクト2013」の総括

ファイザー2年目は潮騒水田の拡大や各種野菜作り、青パパイア栽培などに励み、潮騒農業プロジェクトは去年の土台作りから本格的なプログラムになりました。水田は増設した場所が3・11大震災によって地盤沈下し、補修作業が大変でしたが、みんなの協力で豊作になりました。面積も広くなり、そろそろ重機が必要です。

野菜作りでは支援農家からたくさん野菜の苗をもらい、植えました。分からないことだらけでしたが、農家の指導でナスやトウモロコシ、ジャガイモ、トウガン、キュウリ、シロウリ、トウガラシ、カボチャなど多品種の野菜栽培に挑戦し、数は少量でしたが直売も体験しました。素人農業なので失敗も多く、育たなかった野菜も多かったです。これらは来年の課題となりそうです。

野菜としての青パパイア栽培は初体験で、土壌作りから始めました。約5カ月間、土をパパイア専用にするために多くの肥料を入れました。植え方は何とかできましたが、ポットを外す時期が遅かったので干からびてしまい、半分ほどダメになりました。「畑を空けておくのはもったいない」という支援農家の助言を受け、前段でジャガイモも植えたことで土壌の栄養分が取られ、植える時期や追肥などの十分な管理ができなかったことが反省点です。ほかに畑自体がもともとパパイアに適さない土質だったことも想定されます。育ちも大小の差が大きく、今年は約3割ほどの収穫率でした。

農業経験で分かってきたことは、支援農家は必ずしも依存症への理解が行き届いている訳ではないということです。つい一般就労と同じ感覚で農作業を促され、これに応えようと自分たちの力量を超えた“頑張り”をしてしまい、これがたまってスリッパ(薬物再使用、アルコール再飲酒、ギャンブル再燃)し、農業隊メンバーがつぶれてしまう恐れがあることには十分な注意が必要です。

私たちには、まだまだ基本的な農業スキルなどが不足しています。試行錯誤しながら失敗も成功も受け入れ、少しずつ成長していくしかありません。こうした経験が、今の自分たちには必要なことなんだと実感させられています。



ファイザープログラムの助成を受けた「潮騒ファイザープロジェクト」を農業に特化する内容に方向付けした荒れ地開墾から畑整備への一連の流れ



今年は試行的ながら、潮騒農場で収穫した野菜の直売活動を展開。わずかですが収益を報償金として農業隊メンバーに還元できました

初の 東北被災地&特別養護老人ホーム  
**エイサー慰問**

市民団体の要請に応え、復興支援ツアーに同行

潮騒ジョブトレーニングセンターでは、これまで何とか取り組みたいと考えながらも、うまく機会をつくれずにいた東日本大震災で被災した被災地住民への慰問活動を12月14、15日に初めて実施しました。宮城県七ヶ浜町の住民と交流を続ける鹿嶋市の市民団体「かしま食育たんぼぼグループ」(代表・渡辺けい子さん)のオファーで実現したものです。現地では、潮騒JTCが回復活動の一環として取り組むエイサー(琉球太鼓)の演舞を披露し、お年寄りや子供たちに喜ばれました。一行は、潮騒入寮者の家族が経営する同県内の特別養護老人ホームでもエイサーによる慰問活動を行い、利用者のお年寄りの皆さんに新鮮な感動を与えていました。

## 初の東北被災地&特別養護老人ホーム エイサー慰問



かしま食育たんぼグループは大震災後に毎年2回（5月と12月）、七ヶ浜町の七ヶ浜町内の各仮設住宅約400世帯が入居）を訪れ、花などを贈ってきました。「1回限りの支援ではなく息の長い支援活動を」「直接被災地に足を運んで心を通い合わせられる交流を」という趣旨から、独自に復興支援バスツアーを企画して鹿嶋市や近隣地域の住民にボランティア参加を呼び掛け、今回で6回目のツアーを組み、市民ら約50人が参加しました。

潮騒が参加するきっかけとなったのは、11月初めに鹿嶋市まちづくり市民センターで開かれた「て〜ら祭」でした。たんぼグループも祭り運営の常連団体ですが、潮騒のメンバーがエイサーを初披露したことで、これを被災地でもやってみてはどうか、と打診されました。潮騒では以前から、何らかの形で東北の被災地慰問を考えていたこともあり、趣旨に賛同して今回の復興支援バスツアーに同行して参加することになったものです。

今回、潮騒からはワゴン車2台に分乗してエイサー隊など15人が慰問に参加しました。時間に追われた強行軍のスケジュールでしたが、仮設住宅に住むお年寄りや母親、子供たちが、日頃は目にできないエイサー演舞を楽しんでくれました。特に菅笠を被った白塗りのメンバーによるおどけたトークや太鼓演奏には笑いが起り、現地のお年寄りから

は「寒い中来てくれてありがとう。とても面白かったです」と感想を頂きました。

被災地では長引く仮設住宅での避難生活で部屋に引きこもりがちの人も増えているようです。これまでも多くの団体やボランティアらが現地の慰問に訪れていて、食傷気味の感じもあるようです。一向に改善の兆しや展望が見えない現実に孤立感や絶望感が広がり、アルコール、パチンコ依存も潜在化しているとも聞きます。その意味で、単に一過性のエイサー慰問にとどまらず依存症問題と日々向き合う潮騒ならではの被災地支援の形を模索していきたいと考えます。

栗原施設長は「被災現地との慰問交流は早い段階でやりたいと考えていたが、潮騒も大震災で建物の一部が壊れ、修復工事などで経費負担が大変だった。続く原発事故によって、やっと軌道に乗り始めたシイタケ栽培事業も中止に追い込まれた。こうした被災体験は時間が過ぎると忘れがちだけに、直接現地を訪れて被災体験を共有し、住民の皆さんと温かく交流できればとエイサー慰問を考えた。正直なところ潮騒のエイサー技量はまだ未熟な段階だが、思い切ってやってよかった。現地で喜ばれることは私たちの回復にもつながる。少しでも被災地の人たちを勇気づけられたらと思うので、今後もオファーがあれば続けたい」と話しています。

## 鹿嶋琉球太鼓隊 エンとナカの感想

### 我が故郷でのエイサー（琉球太鼓）デビュー 被災地慰問が自分の回復の刺激に

今、車で移動中。東北道をいざ宮城県へ。とうとうこの日が来てしまった。エイサーを初めてまだ2カ月だが、この日の為に練習してきたようなものだ。今日（12月14日）は宮城の七ヶ浜、被災地の仮設住宅2カ所でエイサー（琉球太鼓）を披露し、長く避難生活を強いられている地元の人たちに笑顔で楽しんでもらいに来た。

実は僕も被災者の一人だ。あの歴史に刻まれる3・11東日本大震災で親戚を失い、家も津波で流されてしまった。僕の家だった所は福島県の海岸部なのだが、地震が起きた時に僕は潮騒ジョブトレーニングセンターにいた。だから家族が大変な時に何もしてあげられなかった。施設でのリハビリ生活で精いっぱい僕にとって、故郷が大惨事に見舞われ肝心な時に家族に何もできない情けなさや無力感が、のどの奥にずっとトゲのように刺さっていた。

そんな想いを残したまま、あの惨劇から2年半が経ち、被災地慰問の機会が与えられた。七ヶ浜の隣の街には母が働いている老人ホームがある。明日には、その老人ホームに回ってエイサーをやってくる予定だ。そこには自分の祖父母と同じくらいの歳のおばあちゃん達が暮らしている。だから心は自分の祖父母にも向けて、太鼓を叩くつもりだ。

そんなこんなで初日、七ヶ浜に着いた。うー寒い…。辺り一面に雪がちらついている、この寒さの中、野外での演舞。みんな見に来てくれるだろうか？不安の中で公演の時間となった。ふとテントがある客席を見ると、おばあちゃん達がもう始まるのを待っているではないか。子供を連れのお母さん達も見に来ている。僕は懸命に琉球太鼓を披露した。演舞途中で太鼓を叩くバチを落したり、体の向きがみんなと逆になったりなど失敗はあったけど、最後の曲では感動してもらえたのだろう、おばあちゃんたちは涙を流してくれ、結果オーライで一日目を終えた。

二日目は老人ホーム。母の前での演舞だけに、とても緊張する。初日の倍は緊張している。笑顔で叩かなきゃと思うが、顔が引きつってしまう。なんとか集中して一曲目を終えた。すると不思議な事に二曲目には「奇跡」が起きた。「楽しい…。なんといつの

間にか自分が夢中になって楽しんでいる。自然と笑顔になり、掛け声も出ている。みんなとの一体感もあり、ささいな間違いなど気にせず踊りに集中できた。見ているおばあちゃん達も楽しそう。これなら掛け値なしに自己採点90点をあげられる。精一杯の演舞で幕を閉める事ができた。

「おかん、ありがとう!」。さあ、帰途にはご褒美の仙台名物牛タンが待ってるぞ…。(エン)

### 被災地の人たちの「涙顔」に感動と感謝 エイサー慰問に参加して

潮騒JTCの仲間有志でつくるエイサー隊一行が今回、東北・宮城の七ヶ浜町の仮設住宅に慰問活動に出向き、被災地の人たちに少しだけけど、エイサーを通して笑顔を取り戻して頂くことができた。

エイサー演舞のホールはそれほど大きくなかったが、40人ぐらいが集まってくれた。これまで自分たちが演じた際の参加者に比べると、ちょっと少ない感じもあった。でも、考えてみれば仮設住宅が少なくなっている現実がある。それは被災地にとっては、とてもいいことなのだ。

その被災者たちが私たちの演舞するエイサーによって笑顔から「涙顔」に変わっていくのが分かった。私たちがエイサーに取り組み始めて数カ月、技術的にはまだまだ未成熟な私たちの太鼓と踊りに、こんなにも感動してくれているんだ!「あー、ここに来て本当によかった」。そう実感させられたエイサー慰問活動だった。

短期間だけど、私たちは辛く厳しい練習を自分たちに課した。ヤク中、アル中の傷んだ体を鞭打ちながらとても辛かったけど、その練習が報われた。自己満足かもしれないが、今回見てくれている人たちに「希望」と「夢」を、ほんの少しでも与えられたと思う。

私の今までの人生で、こんな深い感動と感謝があったらどうか。人様に嫌われ、煙たがられ続けた人生が、今は感謝される人生に変わっている!きつと私は今、「夢」の中にいるんだ…。これは「現実」ではないんだ…。そう自分に問い掛けるほどの強烈な印象だった。これから先、この「夢」を「現実」のものにするにはどうすればいいのだろうか?もつとつと練習して、その答えを自分たちで見つけたい。(ナカ)

## 今月のイベント参加報告

こんなイベントに  
参加しました、  
というご報告。

### 千葉菜の花家族会フォーラム に参加して

12月1日に千葉市内で開かれた「千葉菜の花家族会第一回フォーラム」に、潮騒 JTC の栗原豊施設長や女性の仲間達と参加してきました。

菜の花家族会の方々には、4年程前から支援をして頂いています。私は依存症の当事者ですが、家族でもあります。でも家族との関わりより自分の問題の方が大変でしたので、当事者側で考える事が多いです。

この日のフォーラムでは、家族の方の体験談が私の息子との葛藤が重ね合わされ、身につまされる感情が湧きました。午後からは千葉ダルク、茨城&栃木女性メンバーによる男女混合エイサー（琉球太鼓）競演があり、迫力満点で見応えがありました。潮騒でもエイサーを始め練習に励んでいます。競演者の女性メンバーは輝いていました。

一方、講演では神奈川県せりがや病院の大野先生が依存症に対する理解や当事者への介入どきを分かりやすくお話して下さいました。家族会会長の体験談も娘さんのお話で辛い経験ではありましたが、菜の花家族会はそこから始まった家族会なんだと重く伝わるお話でした。

最後に茨城ダルクの岩井喜代仁代表の講演は、岩井さんならではの家族会への熱いメッセージで、「仲間と共に」の思いがいろんな方向から伝わってきました。いつまでもお元気で熱いメッセージ届けてください。なこさんありがとうございました。(ルミ)

### 「栗原施設長 VS 進藤牧師」対談冊子を発行

潮騒 JTC では11月17日の8周年フォーラムで、ゲストスピーカーとして特別講演してくれた「罪人(つみびと)の友」主イエス・キリスト教会の進藤龍也牧師と、栗原豊施設長との対談冊子「倒れても人はやり直せる～依存症を生きた仲間たちへ～」を発行しました。

今回の講演に先立ち、10月初めに栗原施設長が埼玉県川口市にある同教会を訪れて、約2時間半に及んだ進藤牧師との対談をまとめたものです。信仰のあるなしにかかわらず、ダルクや潮騒 JTC の活動がとてもキリスト教会の活動に近い位置にあることが分かる内容となっています。

巻末には用語の解説を加え、理解を助けてくれます。B5判62ページ。希望者に頒布しています。経費が掛かっているため頒布価格500円でお分けしています。

問い合わせ：潮騒 JTC 本部(電話 0299-77-9099)

### 潮騒 JTC 懸案の 避難訓練を実施

入寮者が100人近くに増えて施設規模が大きくなったことを受け、各種災害を想定した懸案の避難訓練が11月14日、鹿嶋市宮中の潮騒 JTC テイクケア施設が入居するIMコーポレーションビルで実施されました。

個人的には、中学生以来機会がなくて避難訓練をやっていません。たまにテレビや新聞のニュースなどで目にはしており、何となくイメージはしていましたが、看護師さんたちと一緒に打ち合わせをした時に自分の考えの甘さに気づき、急ぎマニュアルを作りました。

人をまとめるのが苦手な自分でしたが、作業プログラムの経験で、リーダーをつくり、担当者をつくり、手順を伝えるという当たり前のことを当たり前にやることの大切さと難しさは分かっていたつもりです。「面倒くさい」を口癖にしている自分ですが、実際に火災が起きたらそんなことは言っていられません。

事前にリハーサルもやり、イメージ通りの流れも出来て、「いざ、本番!」。最初は良かったのですが、勝手に動く仲間たちにイライラも感じながらも、各担当者の協力のおかげでなんとか無事にやり終えました。脱出シートも使い、避難器具の出し入れなど、やってみないと分からないことばかりでした。第1回目でしたが、来年も引き続きやっていきたいと思えます。(ヒトシ)

対談  
進藤龍也 栗原豊

倒れても人はやり直せる  
～依存症を生きた仲間たちへ～

発行所：潮騒 JTC 本部

## 近藤恒夫氏 インタビュー Vol.20

### 「国家がなんとかしてくれる」 では何にも変わらない

#### ●既成の束縛を嫌うところに面白み

— 最近、ダルクの生活保護や献金への依存体質が気になっているんですが…。

近藤 ダルクは依存症の当事者による相互援助活動だから利益を生む構造を持たない。社会で「働ける」ようになるまで心身のリハビリを図る居場所だよ。運営の基本は利用者の拠出する負担金だけど、みんな生活破綻者で家族だって余裕がないから、そこを国の福祉制度が下支えしている。ダルクも間接的に恩恵を受けている形だな。でも、最初の頃は福祉の窓口なんてダルクを相手にしてくれなかったし、依存症についての社会認知なんて今は雲泥の差だった。

— その後のダルクは近藤さんが敷いたレールにうまく乗っている感じがありますが…。

近藤 それは僕にはよく分からない。ダルクはもともと「隙間産業」みたいなもので、既成の束縛を嫌うところに面白みがあるんだ。だから当初はあちこちで「鬼っ子」扱いされた。それがいつの間にか信用が付いて、あちこちのダルクが雪崩を打って NPO 法人や障害者自立支援法（総合支援法）の枠に収まっていくことには正直、戸惑いがある。

僕が思い描いたダルクはもっとダイナミックにどうか、既成の器に収まりきらないところが魅力だし、やりがいにつながっていると思っていたから、この流れは意外だった。既存の枠組みや制度に収まりきらないのが、逆にパワーになる反逆児みたいな存在だと今も考えている。マイノリティーには違いないが、ダルクは必要悪として社会を映す鏡でいい。逆説的な存在感かな。

— そこで大切なのは「暮らしは低く志は高く」の精神ですかね。

近藤 いいんだよ。ダルクで回復した人たちが商売の才覚があるならどんどん金儲けして、外側からダルク

を支えてほしい。そうすれば「ダルクの人たちも国や献金に頼るだけじゃなく、自助努力で生きる糧を見つけて一生懸命に働いているんだな」って、世間の見る目も評価も変わっていくと思う。

#### ●みんな違ったやり方、方法論でいい

— 国の福祉制度は自助、共助、公助の精神から成り立っていますが、「富める者が貧しい者に」の贈与概念が欧米に比べると極端に弱いですね。ましてや経済疲弊が続くと、自業自得や自己責任論がせり出してくる。

近藤 とにかく国家から金をもらうというのは大変だと思う。今にとぼつちりを食うんじゃないか。ダルクはみんな違ったやり方、方法論でいい。経済的に余裕のある人は出せばいいし、ない人は出さなくてもいい。最初の頃は毎月、ロイさんから献金があったから、僕もそれでやってこれた。今スタッフやっている多くの人が、その恩恵をこうむっているはずなんだ。でも、今はみんな入寮者が払えないんだから、それは理想だよ。まあ金もらってこの仕事やっているというのはどこかおかしいし、家族に献金を求めるのも論外だね。

— すると、結論はどうなりますか。

近藤 とにかく今は生活困窮者が増えちゃって、ネコもしゃくしも福祉、福祉。大阪の尼崎市なんて全体の20%が生活保護でしょう。自治体だって財政がパンクしかねない。そう考えると、僕にはこの国に希望はないように思えるんだ。だから自分たちでなんとかしていくというのが本筋だな。いつまでも甘い汁を国家から期待できない。国家がなんかしてくれると考えるようじゃ、現実は何にも変わらない。

逆に「もう福祉の世話にはなりません」つてのもありだ。国家だって所詮は「国」の「家」だからね。それが行き詰っているんだから、いくら声高に権利意識を振りかざしても意味がない。なんとなく見えてきたね。暗い未来が! (笑)。(終わり)

# 受刑者からの手紙

「しおさい俳壇」とともに潮騒通信を特徴づけるのが、この「受刑者の手紙」です。外部とのコミュニケーションに渴望している皆さんの生の声はとても貴重です。手紙は全て目を通してありますが、ほんの一部しか掲載できないのが悩みです。受刑者の皆さん、めげずに頑張ってください。（ユタカ）

## 私は巷にいう「仮釈狙い」の人間ではない

季節の移ろいは早いもので、秋が来たなど思っていたのに急速に冬の足音が近づいてきた今日この頃です。風邪など引かれていませんか。（栗原施設長が）体調がすぐれないと聞いております。くれぐれも無理などしない様に体調管理はしっかりしてほしいと願っております。

今日は報告して置かなくてはいけないことがあり、ペンを執りました。まず一つは身元引受人になってくれると聞き、本当にうれしく身が引き締まる思いがしました。もう一つは暴力団の離脱に関する願せんを書いたという事です。このまま離脱が認められるかどうか分かりませんが、仮釈が貰えるならそれに越した事はありません。

一つ言っておきたいのは、私は巷にいう「仮釈狙い」ではない人間だということです。真摯に薬物依存の回復に取り組み、薬物を使わない日を一日一日積み重ねていきたいと考えております。そのためには原因が何にあるかを考えながら、他の仲間たちと共に日々精一杯努力して行こうという考えに至りました。

満期まであと一年になりました。今後ともどうか宜しく願いいたします。皆様の仲間になれる日を楽しみにしております。どうか御自愛ください。早々。

（秋田県 S・M）

## 「立ち役」なので工場の中で一日中忙しい

前略。皆様お元気でお過ごしでしょうか。私は相変わらず反省の日々を過ごしております。毎月、潮騒通信を送っていただき誠にありがとうございます。手紙を書こう書こうと思いつきながら、なかなか書けずに申し訳ありません。

保護観察所よりSJTC(潮騒ジョブトレーニングセンター)へ行くに当たり作文を提出しなさいとのことと提出したのですが、そのまま何もこちらには連絡がなく今だ調整中とのことでした。少々不安になっています。すみません。まだまだ先の話なのに…。

前の手紙にも書きましたが、今は「立ち役」をやった工場の中を一日中、端から端へ行ったり来たりと忙しい日々を過ごしています。配食係の方もやっと慣れてきて、今はやっと一段落したところです。この調子で一生懸命努めてまいりますので、応援よろしくお願い致します。

この前薬物教育へ行った人がいて、十勝(とかち)ダルクの仲間が来て話を聞いて、とても為になったといっていました。私の順番はまだ先ですが、必ず薬物教育を受けようと思っております。それではご健康をいつも堀の中より祈っております。乱筆乱文にて失礼します。

（北海道 O・K）

## いよいよ出所、ここで人生を立て直せるよう頑張る

過ぎてしまえば、光陰矢のごとしですが進歩の無い私の場合、なんだか時間だけが無為に過ぎていくような気がします。刑務所ばかり入っていると隔世の感を抱かずにはられません。

今回知人に紹介してもらい、何度か(栗原施設長から)励ましの便りをいただきました。また、毎月潮騒通信を送って下さってありがとうございました。私もいよいよ出所の運びとなります。なんとかここで人生を立て直せるよう頑張ってみたいと思います。もし、自分ではどうにもならなくなった時は、お言葉に甘えて潮騒JTCを訪ねたいと考えていますので、その時はどうぞよろしくお願いいたします。今日まで大変お世話になりました。（北海道 K・I）

## 官側には一日も早く昼夜間独居を認めてほしい

冬の気配が感じられる今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。先日、刑務所内で集団食中毒が起き、私も五日間程休養しておりましたが、今は元気になっておりますのでご安心下さい。しかしながら先日、私は規則違反により懲罰三十日を受けてしまい、つまずいてしまいました。これにより工場も替わることになりました。

考えるに、どうやら覚醒剤の後遺症と思われるのですが、私は思い込み(カングリ)が激しくて、とても雑居、集団生活を送れる状況にありません。そのことは前の工場の経験から考えても明らかなのです。これは自分自身が一番分かっていることでもあります。

この状態で、無理して工場へ行ってもトラブル(ケンカ等)を起こしてしまうのは明らかです。私は良しとしても、相手は「仮釈」を目指している人であったり、そうでなくても真面目に務めている人であるわけで、そういう人たちの足を引っ張るようなことはしたくない、と思っています。

そういう気持ちから、官側に昼夜間独居にしてほしいとお願いしましたが、理解してもらえずに認めていただけません。今は調査となっておりますが、私としてはそうした理由からあくまで昼夜間独居を目指すものです。認められなければ調査、懲罰というものは受けたくはないのですが、これも仕方の無い事と考えています。

私の考えは変わることが無いため、繰り返し懲罰を受けることとなりますが、官側にこの事理解していただ

き、一日も早く認めていただけることを、ただただ祈りつつ耐えていく覚悟であります。

私は仕事をするのが嫌だと言っているのではなく、人様に迷惑かけることが無いように一人にて残り少ない受刑生活を送りたいのです。そして二度と受刑生活をする事が無いような人生を手に入れる為にも、総まとめをするために昼夜間独居を求めている。

この事を官側には理解して認めていただきまして、私の更生への道に対する手助けをしてほしいと願いつつ戦っております。ですので、誠に勝手ではありますが栗原さんも応援してください。お願いします。一日一日を大切に送るとい事を忘れることなく、頑張っておりますのでご安心願います。

そんな中、先日分類課の方から引受人が決定したという告知がありました。遅れましたが、ここにご報告いたします。私も安心しております。仮釈でも貰えたらと思いましたが、今の状況では無理な事と思います。それでも気持的には安心しました。

今年も残すところ僅かとなり、ご多忙な事と思いますが、今後ますますのご健勝をお祈り申し上げます。最後になりますが、来年(平成26年)良い年を迎えられますように心よりお祈り申し上げます。これにて失礼致しますが、ご返信を頂けましたら幸いと心よりお待ちしております。

（北海道 S・Y）

## まさにアンビリバボー、ミラクルがたくさん起きた

年末を迎え、現在の処遇状況に至って考えられるのは、栗原施設長が身元引受人になってくれたおかげです。それに安否を気遣う心配り…、それがとっても嬉しくて辛い事や虚しいことが後回しとなり、いつの間にか忘れていくんです。そして心が満たされ言動がぶれず、行いが正しい方向に導いているんです。

本当にアンビリバボー、ミラクルがたくさん起きました。職業訓練に二度も選ばれたこと、三類、二類に進級できたこと。そして今月まで1年半、無事故をいただいたこと。すべて私を背後で大きく支えてくれている存在があるという気持ちがあるから起きたのです。本当にありがとうございます。

先が見えてきたこの時期、気を付けないといけないのが気の緩みです。対策として出房前は必ず正座して窓を開け、裸足で待機していること。寒さと格闘することで、気の緩みを防ぎ緊張感も生まれてくるんです。出所まで毎日続けます。

(潮騒JTCは)フォーラムが賑やかに華やかに行われた様子が新聞(ニュースレター「潮騒通信」)から察します。彼らの表情が眩しく充実している姿に感動しました。特にエイサーの仲間には絆を感じられます。なぜか私までも太鼓を叩いている光景が浮かび、ワクワク、ドキドキしてくるんです。躍動感があり、大成功ですね。

本年も大変お世話になりました。来年は必ず回復へ繋がる一員となり社会復帰を目指します。良い年をお迎えください。（秋田県 I・K）

# しおさい 俳壇

選者 桐本石見

11月のお題

落葉

特選句

ト  
ン  
ボ

道新た落葉の後の木漏れ日も

夏に茂った森の木も秋から冬に落葉する、その道を散歩などすると道も木漏れ日も何か新しい気がする、如何にも初冬の晴れた日を彷彿するし、また人生の思いにも繋がる快い句です。

カ  
ツ  
ミ

特選句

落葉積む季節に上着重ねたる

日本には四季があり夫々に趣きがあり、俳句などもその季節のもとに詠まれる。落葉には暗いイメージもあるが里山の日当たりなどは温かい思いもある。冬の季節に上着を重ねる、人も同じ思いの句です。

ユ  
タ  
カ

特選句

照り紅葉笠間に復す登り窯

笠間焼きは江戸時代の1770年頃に名主の久野半衛門道延が、信楽焼きの陶工長衛門を招いてのが始まりで今では自由な発想の陶工が集う。先の地震で崩れた登り窯も今年復旧した。紅葉も窯の火を祝う句。

## ★わが俳句人生の歩み・No.2

施設長 栗原 豊

「よみうり時事川柳」への投稿をきっかけに読売新聞栃木県版の下野川柳に投稿するようになりました。いつの間にか常連投稿者として名前が載るようになると、思い切って選者の川俣喜猿先生に指導を仰ごうと決意し、投稿葉書の隅に「私は薬物事件で拘置所におります。こんな私でも先生の弟子にしてみられますか」と書いて投函しました。すると川俣先生はすぐに拘置所に面会に来てくれて、「文芸を志す者に身分の差別はありません。一緒に学んでいきましょう」と快諾してくれて、川柳についての本を数冊差し入れてくれたのです。

こうして私は下野川柳で、まだ俳句には至らない五・七・五の短詩の基礎を学び、鍛えられました。そして府中刑務所に収監されてからは、月に一度ボランティアで俳句の指導をしてくれる先生から、本格的に俳句を学ぶようになり、5年以上も指導を受けることができました。このように私の短詩の基礎は時事川柳に始まり、本格的な川柳へと移り、そして俳句へと結実していったのです。(次号につづく)

## 今月の秀逸句

秀逸句

落葉焚きそろそろ諸の焼け具合

ヒ ロ  
今では落葉焚きもあまり見掛けませんが、それでも山里や公園で見掛ける。落葉の火はやわらかく諸も美味く焼ける、子供の頃の里が懐かしい句です。

山登り紅葉やがては落葉かな

ツ カ  
晩秋に山登りをすると初めは綺麗な紅葉の山道だが登るに従い枯葉になりそして落葉道になる。如何にも実感の登山の句です。

落葉舞ふ帰り支度の山の宿

レイコ  
原句の下五を「山の宿」に変えてみましたが、これで何処かの旅で帰り支度をしながら宿の名残りを思う詠になります。実際は作者の行かれた地名にすると実感の句になります。

晩秋や林の中の美術館

カート  
これは何処の美術館だろうか、林の中と言えば笠間の日動美術館などを思いますが、秋も深い林の中で静かに絵や書など鑑賞するのも秋といえます。秋に相応しい句です。

恋心落葉とともに宙に舞ふ

ユージ  
秋は人の恋しい季節でもあり誰かに思いを寄せる、そして冬を迎える頃には叶わぬ恋に終わったのかも、紅葉の様に燃えた恋心も今は枯葉となって宙に舞う。俳諧の哀れを込めた句です。

柿熟るる息子登りしこの木かな

サユリ  
原句は少し変えましたが、柿が熟れる頃になると私も登って食べた日が懐かしい、句の作者もそうした息子の姿を顧んでいるのかも。母親の思いが切々と伝わる句です。

紅葉でしよ子の手のひらも握る手も

しま  
古来幼子の手はもみじの様だと云い、それに赤子とも云う二歳頃までは手も薄紅で可愛い。「紅葉でしよ」と言い切ってその思いも籠めての詠で、ひらく手も握る手も愛おしく微笑ましい句です。

## 受刑者の句

過ちをいく度赦され年を越す (北海道 章三郎)

原句の「年惜しむ」を変えましたがこれで過ちを幾度か赦免されながらも今年も年を越へ新年を迎える深い思いの句になります。万物の霊長と云われる人間は素晴らしい知恵や文化科学を持ちながら罪を犯す、見方を変えれば哀れな動物とも云えます。下五を「除夜の鐘」にしてもしみじみとした詠になります。

欲捨てて軽くなりたる日向ぼこ

(北海道 章三郎)

冬の風も無く日当たりの良い縁側や塀の内などで休むと眠たくなるほど暖かい、それにある齢を越えたり環境によっては五欲も捨てる境地になる。俳諧の哀れを込めた句です。

冬川や薄き光の流れゆく

(北海道 章三郎)

秋の雨の出水も過ぎ冬深くなると川の水も少なくなり川幅の中を途切れ勝ちに流れる、晴れた日でも冬の陽は薄いので流に光る日もまた細い。如何にも冬の積の景の句です。

11月のお題

## 落葉

### 山登り足元やがて枯落葉

ムラ

筑波山などに登ると下は紅葉でも上は落葉でカサコソと音もまた楽しい。一人だと後ろに誰か付いて来る思いにもなる。実感の句。

### 公園の紅葉落葉の日々つづく

トリ

原句は少し変えましたがこれで景の見える句になります、冬になり紅葉が落葉になり、そうした日が続く、散歩の詠かも。

### 枯落葉とはもう言えぬまだ言える

ジュリー

紅葉は冬には枯葉になるがその間の彩りの移りはいろいろな趣きを見せてくれる、そして一冬を越すと腐葉土に近くなる。何処かの山道を行きながら枯落葉に思いを寄せ、人の老若も思う句です。

### 落葉舞う冬将軍も間近いかな

フミ

十一月も半ばを過ぎると北風も強くなり、木枯しと云う風が吹き、山も公園などの木々の枯葉も吹き飛ば。そして冬になる思いの句。

### 落葉かな落葉かなかな落葉かな

マーシャ

十二月にもなると公園や寺院の銀杏などが風も無く散るが、それらを見ているとこの詠の様な思いになる、簡素ながら面白い句です。

### 夕暮の落葉ちるちる淋しいな

ヒデ

俳句では落葉は冬の季語なので、少し言句を変えましたが、これで夕暮の静かな中にも落葉が散り淋しい思いの句になります。鹿島神宮の森の夕暮などを散歩するとこの詠の思いになります。

### 落葉道群れ行く子等と散歩かな

くそじい

子供等は学校の帰りか、それとも休日の神宮の森の道か、子供等の声も明るい、その声に誘われながらの散歩も楽しい句。私にも「校庭の声聞こゆれば青き踏む」があり懐かしい。

### 里山の月日のいよよ落葉かな

ユキ

原句の秋、紅葉、落葉は自然の成り行きですが少し俳句的にしますとこの句の様になります。落葉かなの中に、春も秋も紅葉も過ぎた思いも籠められます。また落葉の後の木立にも人生を偲びます。

### 場外の溜息ともに落葉舞ふ

かつちゃん

この詠は場外馬券売り場などの景ですが、レースが終り結果発表後は外れ券も溜息もそこらに散らばる。落葉も風に舞う悲喜こもごもの句。「枯落葉外れ馬券もともに舞ふ」でも簡潔でよいかも。

### 枯落葉在りし日の木々思ふかな

チャー

並木道や公園の落葉を眺めると、ふと、その木の芽吹きや若葉の日を思う、それはまた自分の人生を顧る思いでもある。しにじみした句。

### この道の落葉舞い散る中に行く

イルカ

俳句は同じ様な言葉を重ねるのも良いですが、やはり自分が居る臨場感のある方が良いです。落葉の舞う道を行くとロマンもあります。

### 落葉舞ふ我が来世への道標

イチ

過去、現在、来世を三世と言い、来世は死後の世界でもあるが、落葉を見ると老いを思う。しかしそれは自然界の輪廻で姿形を換え生まれ変わることもある。「落葉舞ふ我が未来への道標」の方が良いかも。

### 白球を追う少年に落葉舞ふ

阿部

野球の試合か練習の詠か、グラウンドの周囲の桜などが落葉となって舞う中を少年が球を追う、夏の野球とは違った趣があり、懸命に練習をする姿を彷彿する句です。

### 子供等が落葉の山に旗を立つ

コバ

この詠は落葉を集めて子供達が小山を作って遊んでいるのか、私も子供の頃に背後の山で落葉集めの手伝いをして山を作って懐かしいが、今はこんな遊びも少ない。勝った子等が旗を立てる、明るい句です。

### 時こえて命めぐるる落葉かな

タツヤ

四季のある日本では大方の広葉樹に若葉、紅葉の後に落葉の時が訪れる、それらを見ると命の巡りをしみじみと思う句です。

### 落葉見て冬の深みに焦りたる

ノリ

この詠も少し変えましたが、落葉の後は冬で、それから春なので一般的には、落葉に冬の深みを思い冬支度などします。

### 落葉見て青き時代を省みる

サトシ

落葉樹の一年は春の芽吹きから花、緑の夏、紅葉の秋、そして冬の枯葉や落葉と人の一生にも似る。句の作者も齢を重ねて青春時代の恋や仕事などの年日を顧るしみじみした句です。

### 落葉また季節巡りて土となる

コタロウ

現代用語にリサイクルがありますが、元々自然界は木も動物も輪廻の中で、花の日も土に還る日もあります。落葉もまた季節や年月に土になり緑の葉になる日もある。仏界も思う句です。

### 落葉かけ子の日の遊び惚ふかな

チーナ

昔の田舎では里山が綺麗に整備され、落葉は堆肥や燃料にしたので初冬の頃は落葉掻きがあり子供もそこで遊んだ。栗拾いや通草、山葡萄狩など懐かしい句です。

### 袋田の川に流るる落葉かな

マツチャン

原句の上五を「袋田」に変えてみましたが、これで景の見える詠になります、袋田の滝は有名ですが川に流れる落葉にも静かな初冬の趣があります。作者の見られた川の名にするともっと良いです。

### 落葉踏むザックザックと筑波道

ボチ

原句は落葉と霜柱の季語があるので、落葉に焦点を合わせましたがこれで如何にも落葉を踏みながら行く山道の思いがします。下五は、里の山、鹿島道などでも良いです。

### 落葉達森でジュウタン街じやごみ

ガク

落葉の見方にも種々あり、森では絨毯の様に冬の趣きもあるが、街では塵。音楽も喧しい時、心慰む時がある。面白い句です。

### 公園のあの木この木の落葉かな

カツ

筑原句は変えましたが、これで何処かの公園の散歩などで落葉を見る景が見えます。落葉も見方によれば形、色、それぞれ趣きがあります。

### 山の湖観光船に落葉かな

長吉

原句は少し変えましたが、これで何処かの湖の観光船に乗ると、山風に飛んで来た落葉を見る句になり

ます、山路に見る落葉よりも珍しいかも。上五を芦ノ湖にすると実景が見えます。

### あかね雲水の冷たさもう秋か

フミ

茜雲は朝や夕方に染まる雲だが主に夕方に云い、西の空を彩る。「我が宿のいささ群竹吹く風の音のかそけきこの夕べかも」 家持がありますが、この詠は水の冷えに秋をしる実感の句です。

### 幼子のかぎす手もまた紅葉かな

オノ

幼い子の手は楓の葉に似るので、もみじの様な手とも云う、何処かの散歩道で出会い別れの手をかぎす、その子の手の手もまた、初秋の楓の薄紅葉の様可愛い。微笑ましい句です。

### 鹿島灘風吹き上げる落葉かな

エゾ

鹿島灘は以前は波崎から大洗まで砂浜だった。鹿島港建設後はかなり寸断されたが、大竹海岸辺りは如何にも灘の思いがする。吹き上げる風に落葉が舞うのも男性的な鹿島灘の句です。

### 落葉見る我が生涯も似たるかな

シモ

落葉を見ると、歳老いた気がして人生の終りの様な思いにもなりますが、見方を変えれば、欲も無くなり心も軽く、新しい境地も開けます。落葉した木立は清々しい思いもします。俳諧の句です。

### 落葉かな俺は負けない夢を持つ

トシ

落葉には寂しいイメージがありますが、この詠はそれに負けない心の強さがあり頼もしい。落葉した木も来春は芽吹く夢がある。私に「冬木の芽仰ぎ明日の声を待つ」があり共感の句です。

### 境内の落葉の上で犬おどる

麻生

これは鹿島神宮かも、落葉の温かさに犬も喜び跳ねるのかも、よく猫も日当たりの落葉の中に寝ているのを見る。微笑ましい句です。

### 落葉散る木々や新たな決意秘め

カイジ

原句は少し変えましたが、これで作者の意に少しは添う様にも思います。木が落葉した後は来年に備えて密にも芽を持ちます、冬木の芽とも云い、決意とも希望とも思えます。

# どっこい 私も生きてます～我が回復記～

「依存症のカツミです」 **上**

## 潮騒での回復生活で「人生に絶望はない！」を教えられる

私が潮騒JTCにつながって、早くも1年2カ月の歳月が流れました。回顧する過去はひどいもので、酒、ギャンブル、薬物に依存して独り暮らしの生活も成り立たず、また私自身の過去の生き方（いわゆる極道渡世）が身に付いて、いつ死んでもいい、という徹底したその日暮らしでした。すさんだ生活でしたから、明日を考えたことはありませんでした。

迎える日々は自墮落で依存性のあるものに溺れ、いつも死を想定して、「明日の生活を考えるより今日一日の生命をどうつなげるか」と、自分の寿命のことばかり考えて刹那的に生きてきました。

それでもなんとか独り暮らしの生活を成り立たせようと、職を転々としたものの、働いた給料は酒・クスリ・ギャンブル…と全て依存対象に変わり、翌日には財布が空という状態の繰り返しでした。私はシラフでは生きられず、人間関係においても破綻していました。

こうした依存的な生き方では食うこともおぼつかず、飲食店を経営する土地の先輩に身を寄せる形で糊口をしのぐ日々でした。当然、そこには貸し借りの関係が生まれます。

食うことがままならない私の懐事情では、他人に頭が上がらなくなる思いは深くなりばかりです。自分の意に反してまでも人に頭を下げメシにありつこうとする、そんなぶざまな生活を強いられたのが現実です。

一事が万事、依存症という病魔（もちろん、その頃は病気という認識などありませんでした）に魅入られた私ですが、とりわけ薬物依存によって人格が破壊され、クスリのためにはゆすりたかりの類で金策をしたりして、人としての心を失っていました。（次号に続く）

## 12月のバースデイ

アベちゃん



元気でここまで来れた、これからも断酒を続けます。

エン



気づけば33歳、俺はどこにむかっているんだろう。

ヨウイチ



まる四年たち、うれしい。親父やルミさんに感謝し、今後クリーンを伸ばしていきます。

ヒトシ



なんくるないさ～

ヒコ



病気をしないようにがんばりたいです。

クニマツ



どうとう誕生日がきてしまった。おめでとう！！

ヨシハル



歳はとりたくない。

テーさん



元気にやっています。

イルカ



やせたい、元に戻りたい。

## 12月の行事予定

- 16日 新宿とまりぎアルコール相談業務  
潮騒誕生会
- 17日 女性映画会
- 19日 男性映画会  
潮騒俳句会
- 21日 秋元病院メッセージ  
美空野保育園運動会（鹿嶋琉球太鼓応援演奏）
- 23日 鹿島神宮門前朝市参加
- 22日 潮騒家族会
- 25日 ボーリング大会／クリスマス会
- 26日 1回目餅つき
- 28日 年忘れ餅つき大会（潮騒出店あり）
- 29・30日 大掃除

## 1月の行事予定

- 1日 初詣（鹿島神宮）
- 6日 新年会
- 12日 秋元病院メッセージ

## 編集後記

師走に入り、気ぜわしい日々が続きます。今年も潮騒JTCは「ファイザープロジェクトに明け、ファイザープロジェクトに暮れた」1年でした。お陰様で潮騒農業自然隊メンバーの努力が実り、来年（プロジェクト最終年）もファイザー社による継続支援が受けられるようになりました。実績のない歴史の浅い潮騒JTCにとっては、とても有難い朗報です。しかも「来年度は減額されるのでは？」と気をもんでいた助成金がなんとアップしました。贈呈式では全体講評に立った選考委員長の口から直接「潮騒ジョブトレーニングセンター」の名前が上がり、高い評価を受けました。それだけに責任の重さを痛感させられています。これまでも触れてきましたが、潮騒はダルク内では後発で、しかも独立時のボタンの掛け違いが尾を引いて、今でも同じ仲間のはずの一部ダルクから「差別的」な扱いを受けています。でも、めげずにダルクの原点である日々の回復に努め、未来志向で施設運営に励みます。それだけにファイザープロジェクトの継続支援の認定は私たちには勇気と希望を与えてくれます。読者の皆様、来年もどうか宜しくお祈りいたします。なお、本号はコンテンツが多いので通常よりも増ページとしました。（市）

## 献金を頂いた方（12月1日現在）

- ・梅島クリニック 院長 和田龍蔵 様
- ・茨城県更生保護女性会 会長 井坂たけ 様
- ・イグナチオ教会 マヌエル・エルナンデス 様
- ・小岩井商事（株） 小岩井重光 様
- ・渡辺洋子 様
- ・石井照明 様

## 献品を頂いた方（12月1日現在）

- ・茨城県更生保護女性会（古河支部）様
- ・アトム電気 イルポートこぼり 様
- ・タイハイ（株）様
- ・（株）田口商事 様
- ・かしま食育たんぼぼグループ 様
- ・山下寝具（株）様
- ・堀内 誠 様
- ・上田隆靖 様
- ・宮下 様

その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。また、前回献品をいただいた方の記載漏れがございましたこと、お詫び申し上げます。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

## 潮騒通信 どっこい生きてます！

### Contents

- P2 依存症の回復はいつやるか？ まさに「今でしょ！」
- P3 ファイザープログラム  
**やったぞ！ 潮騒JTC 3年目も助成決定**  
依存症の当事者も意識を変え謙虚な矜持を  
ファイザー推進委で1年間の活動を報告
- P7 東北被災地 & 特別養護老人ホーム **エイサー慰問**
- P10 今月のイベント参加報告  
千葉菜の花家族会フォーラムに参加して  
潮騒JTC懸案の避難訓練を実施
- P9 近藤恒夫氏インタビュー No.20(最終回)  
**国家がなんとかしてくれるでは何にも変わらない**
- P12 受刑者からの手紙
- P14 しおさい俳壇
- P18 どっこい私も生きてます！ ～我が回復記～

### 編集・発行：

特定非営利活動法人  
潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）  
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 34号  
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10  
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091  
潮騒リカバリーホーム（中施設）  
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱 56号  
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16  
TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098  
潮騒スリークオーターハウス 銚田  
〒311-2113 茨城県銚田市上幡木 1113-39

E-メール [k.s-darc@orange.plala.or.jp](mailto:k.s-darc@orange.plala.or.jp)  
ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



